

ESUJ Presents

英語でディベートを楽しもう

英語運用力だけでなく、論理的思考力、プレゼンテーション力など
社会で必要とされるスキルを磨くことができるパラメンタリー・ディベート。
大学生や社会人のディベート大会を開催する ESUJ (日本英語交流連盟) に
その効果的なトレーニング法やスキルの生かし方を解説していただく。

Vol. 03

ディベートのスキルの生かし方

岡田真樹子

(山梨英和大学教授、日本英語交流連盟 (ESUJ) 常務理事)
ESUJ (English-Speaking Union of Japan) は、1998 年
10 月に発足した非営利、非政治のボランティア団体。英語を
通じて国際的な相互理解と世界の人々との友好を主たる目的と
して、学生ディベート大会の開催、英語プログラムの実施、講
演会などの活動を行っている。ESUJ は 1918 年にイギリスで
設立され、現在では世界 40 カ国以上の国々で設立されている。

実社会で役立つディベートのスキル

人間は、毎日数えきれないほどの判断をしながら「発言」や「行動」をしています。無意識に判断することもあります。例えば、「是非」、「善悪」、「正邪」、「損得」を検討し決断しなければならないことも多いと思います。例えば「一時間目の授業に出るか否か」。大学生にとっては葛藤でしょう。このように、私たちは常にディベートをしているのです。

影響を受ける人が増えれば増えるほど、判断は難しくなります。個人の発言や行動、そして決断が家族や友人、社会、さらには国民にまでも影響を及ぼすことになります。

このコラムでは英国議会議を模したパラメンタリー・ディベートをご紹介します。英国では、議会議が審議と決議をする際に用いるディベートを授業や日常生活

に取り入れ、理性的、客観的、論理的に対話をしながら物事を決めるプロセスとスキルを学びます。自分の考えをわかりやすく「話す」、そして相手の話を正確に「聞く」訓練です。

難しい課題についても当事者意識を持ち、考え、その真実、善悪、正義を追求することが大切です。ディベートでは課題(論題)の是非を柔軟な姿勢で多角的に考え、情報を取捨選択・整理し、優先順位を決め、自分の考え(立論)をまとめます。相手側の議論を注意深く聞き、その是非や根拠、論題との関連性や重要性を即座に判断します。また即興で質問や反論をし、矛盾点や間違いを指摘する訓練をします。これらのスキルはすべて実社会で大いに役立ちます。

今回は、ディベートのスキルを社会で生かした方々の経験談をご紹介します。

Topic 1では、元パキスタンおよびカナダ大使で現在 ESUJ 会長を務める沼田貞昭氏から、「日本の外交」の場で生かしたディベートスキルについて語っていただきます。

Topic 2では、鈴木茂男 ESUJ ディベート委員長から、国際ビジネス交渉での主張や反論について解説していただきます。

そして Topic 3では、吉野舞起子 ESUJ 事務局長から、留学や就活、レポート作成での活用法を紹介していただきます。

大学の授業、就職活動、将来の仕事で、ぜひパラメンタリー・ディベートをご活用ください。

Topic 1

国際交渉でのディベート力

外交の世界では、ディベート経験を通じて培われるような度胸とスピード感と反射神経がしばしば要求されます。例えば、2015年10月20日の国連総会第一委員会で中国の傅聰軍縮大使が、「日本はごく短時間で核兵器を保有することができる状況にある」と主張したのに対して、日本の佐野利男軍縮大使は、「専守防衛を基本方針とする日本は、他国への軍事的な脅威になることはない。非核三原則も堅持している」とその場で直ちに反論しました。

私は、1990年代に在英大使館の次席、次いで外務省スポークスマンを務めていた時に、外国メディアとのインタビューを何百回も行いました。日本の国会や株主総会での答弁は、とかく受け身(defensive)なものになりがちですが、BBCやCNNを相手とすると、こちらの主張すべきメッセージを簡潔明瞭に打ち出すことが求められます。予め質問は予告してくれませんが、こちらから強調すべきポイントを3つ位にまとめ、それに関連する質問への答えを考えておくことが必要です。限られた時間の中でこれをどう活用するかは、瞬発的コミュニケーション力の問題で、パラメンタリー・ディベートと多分に共通しています。

皆さんがディベートを通じて養う力は外交の世界でも必ず役に立ちます。

(沼田貞昭 / ESUJ 会長)



Topic 2

国際ビジネス交渉の現場で

70年代にある産油国の首脳と大きなディールを交渉していた私は、ある段階で「この契約は金額も膨大でキーになる。お国の保証書が必要なので検討してほしい」と申し出ました。交渉相手は一瞬ひるんだ後、「Why? I find it terribly difficult to understand.」と声高に反論してきました。

「お国はオイルリッチとはいえ、まだビジネス的には未整備の途上国なので、確たる法的な保証書が出ないとこのディールは東京本部の了解が得られない」というのが私の本音でした。そのまま、英語で、「Your business environment is still underdeveloped and needs sovereign guarantee to make the deal approved by our Head Quarters.」と言ったら、相手は、「Developing stage or not?」とか、「Isn't my word good enough?」とか、「We do business here by shaking hands」とか、「Why bother your Tokyo office?」と反論してきました。

私の rebuttal (反論) は、「I need the guarantee, as they all say anything can happen in this part of the world.」でした。「お国では」と特定せずに「in this part of the world」、「ビジネスが未整備だ」とは言わずに「anything can happen」とぼかし、私個人の意見ではなく「they all say」「みんながそう思っている」、とぼかして相手のメンツを救いながら反論の余地を減らしました。あなたならどう反論しますか?

(鈴木茂男 / ESUJ ディベート委員長)

ESUJ 社会人ディベートクラブ

ESUJ 社会人ディベートクラブでは実践的セミナーを年3、4回程度開催。総合的な英語パブリックコミュニケーション能力が求められる本セミナーで、業種・国籍・世代を超えた仲間のネットワークを広げることができます。初心者でも大丈夫! 経験者がサポートします。

Topic 3

留学や就活での生かし方

ディベートと言うと、みなさんは「難しそう」「もっと英語ができれば」と思うかもしれませんが、では、「ディベート」のいいところ取りはいかがでしょう。Vol.01の「グローバルスキル」の多角的な思考力と、Vol.02のマインドマッピングがおすすめです。私は、知らずのうちにこれらのスキルをニューヨーク留学で身につけていました。ここでは留学準備でのスキル利用法を紹介します。留学を考えていない方も、自分の状況(就職活動、レポート作成、プロジェクト運営)を思い浮かべ「自分なりにどうアレンジできるか」と考えながら読んでください。

提出書類の Personal Statement やエッセイなどでは、マインドマッピングで自分自身の肯定(長所)と否定(苦手)を多角的・客観的に書き出します。辛い作業ですが否定もたくさん書き出します。大切なのは、考えた事柄を多角的に分析し、前向きな表現で言語化することを繰り返すこと。肯定はより良く「進学する大学でどう貢献できるか」、否定はチャレンジと捉え「何を大学で学び、人間的にどう成長し、社会でどのように貢献していくのか」をアピールします。隠れた自分自身と留学目的を発見できます。このような自分との対話を重ねることにより、critical thinking skills や分析力が養われ、多文化社会でのコミュニケーション力も向上することでしょう。

(吉野舞起子 / ESUJ 事務局長)

ESUJ ディベート情報

ESUJ では在日外国人や海外で活躍した方々の講演会、ディベートの練習会を行っています。詳しくは、<http://www.esuj.gr.jp> をご覧ください。

- 全国高校生パラメンタリーディベート (HPDU) 連盟杯 (HPDU 主催、文科省後援、日本英語検定協会 & ESUJ 協力)、国立オリンピック記念青少年総合センターにて、3月12日(土)、13日(日)。詳しくは HPDU of Japan で検索。